平成２５年度草の根・人間の安全保障無償資金協力署名式典

１２月２０日（金）、平成２５年度草の根・人間の安全保障無償資金協力署名式典が当館多目的ホールにて執り行われ、隈丸優次大使と被供与団体２団体（バッタンバン州公共事業運輸局、プレアビヒア州チュアエプ郡コンポンスロラウ・ムオイコミューン評議会）の各代表が贈与契約書に署名を行いました。

バッタンバン州公共事業運輸局が実施する「バッタンバン州国道５号線洪水対策計画」では、国道５号線沿いのバッタンバン州都中心部において、雨水貯水槽40基を備えた直径0.8mのコンクリート製排水管を市内の二箇所、全長1，070mを地下に整備することによって、雨季の洪水による道路の損傷を防ぎ、周辺の衛生環境改善を図ります。本案件の実施により、州都に住む周辺住民約１８，０００名が安全で快適な生活環境を手に入れることが可能となります。

洪水時の様子
（バッタンバン州都）

各戸の船着場
（プレアビヒア州）

また、ラオス国境に位置するプレアビヒア州チュアエプ郡コンポンスロラウ・ムオイコミューン評議会が実施する「プレアビヒア州コンポンスロラウ・ムオイ船着場建設計画」では、コンクリート製の船着場（６０ｍ×３．８ｍ）に加えて、浮桟橋（10m×6m）を建設します。船舶への乗り降りが容易になることで、年間を通じて住民が安全に船着場を利用できるようにします。また、右船着場の整備によって住民の往来およびラオスとの物資の輸送を促進させ地域の活性化を図ります。右船着場の整備によって８村に住む５，３８０名が年間を通じて安全に船着場を利用できるようになります。

式典では、隈丸大使がスピーチを行い、排水施設・船着場は共に適切な維持管理が必要であり、被供与団体と地域住民によって適切に管理されることを望んでいると述べ、今回の支援がカンボジアの草の根レベルの人々に直接裨益し、日本とカンボジアの更なる有効促進につながることを願うと結びました。続いて、各被供与団体の代表が、日本国民及び政府への感謝の意を表明し、地域住民の手によって施設を維持していくことを約束しました。